

2023-2024 理事通信



24年1月 在京ワイズ新年会の際
(東京 YMCA 東陽町センターにて)

理事メッセージ

23-24 東日本区理事 山田 公平

「ワイズ活動前半期が終って見えてきたもの」

12月16日(土)にLT委員会による次期部長、事業主任研修会が行われました。実はこの次期リーダーシップ(2024-25年度)を担う16名の内、10名が今年度からの継続者です。これまでにない役員体制です。研修というより、ワイズ東日本区の課題は何かというような話し合いが中心の研修会となりました。そこでどんな課題があるか、見えてきたものを紹介します。

グループからの意見：区は積極的にあれこれと提案してくるが、ワイズは全体的に見てもついてきていないのではないかと。部の役員はなり手がいない。献金も何に使われているか見えない。クラブの楽しさを各クラブで作れなかったらワイズのいのち(存在する理由)は終わっているのでは?という意見も。区ではユース、ユースと言うが、クラブではそれに反応がない、興味ないの?特にYMCAとの関係が薄いところ、全くないといったクラブではユースが周りにいない。区では“ユース”を強調しているが、正直あまり興味がない、ユースとのかかわり方がわからない、という意見を持つ人も多いのでは。

理事の想いⅠ：札幌クラブでは学生YMCAのユースと交流会をしたり、何か一緒にできることを話し合ったり...、これがクラブを活性化し、良い方向に元気づけているという意見も。CS活動の充実が大切という意見も。新たな活動を生み出すことが大切なのは。少人数のクラブの会長にとって、部で行った会長会では、

contents

- | | | | |
|-----------------------|---|------------------|---|
| ・理事メッセージ、理事の想いⅠ | 1 | ・在京ワイズ新年会 | 3 |
| ・理事の想いⅡ、Ⅲ、Ⅳ、まとめ | 2 | ・能登半島地震への募金活動お願い | 4 |
| ・楽しくて意味のあるワイズ | 3 | ・今後の予定 | 5 |
| ・新聞の記事より「老いて病む 人間の進化」 | 3 | ・入会者、JEF 献金者 | 5 |

2024年01月29日発行

「何か変化や一緒に取り組む動きを生み出す可能性を持っている」という意見もあった。それにしても部があまり機能していないという声も強くあるように感じた。部の再編も必要ということが必要かもと感じている。

理事の想いⅡ： YMCA がない地域のクラブ、YMCA との関係が薄いクラブも多くあるように感じます。徐々に関係が弱まっているのかも… YMCA の主要な目的であるユース育成を生み出すきっかけとしてユースアクションは、まさにそのもの。この活動の意味が見えるようになればワイズにとって、多分 YMCA にとっても大切な前進となると信じている。

理事の想いⅢ： 年度初めに理事主題として、ユースアクションの成果はなにかという言葉、「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！」としたが、果たして皆さんの気持ちはどうでしょうか？この言葉は、ユースの育成ではなく、ユースエンパワメントの実感になるのではと思う。ユースアクションに参加したユースが、何を感じたか、自分の中でどんな変化が生まれてきたか。1年前のユースアクションの第一弾が昨年終了した。感想や報告を聞いた人たちは、ユースアクションを終えたユース自身がこんな感想や達成感を感じたか新鮮な思いをもったのでは。ユース育成は、YMCA やワイズメンズクラブがするのではなく、ユース自身で考え、実行し、感じるものであるというのがユースエンパワメントの実感であると思う。その意味で、この活動は YMCA とワイズが本気でやるべきものだと感じている。昨年一緒に取り組んだ盛岡 YMCA、とちぎ YMCA、山梨 YMCA や中大学 Y や富士宮高校を支えたワイズの人たちはそう感じたのではないかな。これを今年度は2月に募集をして、5月に第二弾として始めようとしている。

理事の想いⅣ： これからのワイズと YMCA の共通する使命は、ウェルビーイングを醸し出すコミュニティー (Community Well Being) でありたいと思う。実行する過程においてユース自身の中で身に感じる喜びや自信、やる気、喜びといったもの。ユースアクションは、その感覚を体験するきっかけである。昨年のユースアクションの流れの中で、これからの社会でワイズと YMCA が一緒にやり遂げるべき何かが見えてきたように感じた。ユースアクションに参加した若者たちの発表を聞いていて、まさにウェルビーイングを生み出す場所 (コミュニティー) だと感じた。さらに、これからもっと取り組むべき課題があるとも感じた。それは、熊本で行ったユースアクションで、リーダーたちが不登校の子どもたち (小中学生) 数人を集め、10名程度のリーダーたちが毎週金曜の夜に食事を一緒に作って食べたり、ゲームしたりすること、月に1回は一緒にデイキャンプをする。そして夏休みには4泊5日のキャンプをすることだった。これは、地元の教育委員会と臨床心理士と相談して始まったプログラムで、最初は数人の子どもたちで有ったが、徐々に増えて10名まで増えていったという。何よりもこのプログラムに関心を持って集まる大学生リーダーが増えてきた。関心、社会的意味、子どもたちの成長を感じる体験があるからだと思う。もう一つの注目すべき活動は外国にルーツのある子どもたちの日本語教育や体験学習の機会を作りだしている、NPO メタノイヤという団体の活動であった。東新部では、この活動を応援したい、このような活動をいくつかの地で出来ないものかと話し合いが始まったという。

2

まとめとして

この二つの活動やその意義は、これからの YMCA とワイズの協働プロジェクトとして据えられないかを感じている。そのためには、専門家の意見を聞き、研修をしていくことも必要になる。まずはこれらの課題に関心のある YMCA を探し、その活動をワイズが応援するのはどうかと思う。社会に向かって YMCA が良い活動を興し、挑戦する、そんな YMCA を応援するワイズ、これが Y とワイズのパートナーシップの意味だと思う。理事2年目は、そんな可能性を考えつつ前進したいと考えている。これらの活動に関心をもつ人たちは、何か手伝いたい気持ちを持つようになると思う。「ワイズは、そんな活動の手伝いをしています」と言えるようになりたいものである。未来への展望となる。

2024年01月29日発行

楽しくて意味のあるワイズ

CS・Yサ事業主任 廣田光司

「自分らしさ」という言葉があります。「ワイズらしさ」と何でしょうか。ワイズとは何者でしょうか。この人たちは何をしようとしているのか。外の人を見て・興味関心をもって入って来ます。ワイズメンズクラブの使命はYMCA運動への協力と地域奉仕活動にあります。

現会員の継続には親睦が大切です。楽しいワイズです。しかし新しく外から仲間を誘うには何をやっている・やりたい団体かが問われます。意味のあるワイズです。社会をどうとらえ何をしたいのか。使命感とその具体的な行動です。

CS・Yサ事業委員会では各クラブの地域奉仕活動リストを作成し全クラブに配布いたしました。CS活動リストからヒントを得てクラブライフの充実を図るためです。他のクラブの活動を参考に自クラブの新しい活動を発案・開始することで自分たちのやりたい事を明確にするためです。

ワイズ東日本区7部56クラブで219のCS・Yサ活動がリストアップされました、

今後、委員会ではいくつかの特徴的な活動を紹介する機会を検討しています。各部ごとに主査の一押しを発表し、選出されたものを多くの人に紹介します。

以上

新聞の記事より 「老いて病む 人間の進化」

山田公平

動物である人間が生殖活動を終えた後、30年も40年も生きる意味は何なのか？動物に共通している寿命は心臓の総心拍数が20億回程度で終わるといふ仮説がある。ゾウは60年、ネズミは2年、そうすると生物学的な人間の寿命は55歳前後と考えられる。しかし進化の過程で人間の寿命は延びている。老いた人のいる集団の方が人間の生存に有利に働き、選択されて長生きできるようになったのでは？長寿になる人がいることで集団（社会）は栄えるからとも考えられる。そこでシニアの役割は何かを考えたい。

シニアの存在が人間の寿命を延ばしてきた。若い時には利己的でもいい。そのエネルギーが革新を生み、生産性につながる。しかし、人と人の社会には調整役がいる。人口が少なくなっていく社会では、働きたい人がもっと活躍してもらった方が良くもなる。シニアが活き活きと生きていければ下の世代も安心し、将来に向けて頑張れる。長寿国日本で魅力的なシニアのロールモデルを作り、夢と希望をもって生きられる社会になってほしい。

読売新聞 2024年1月12日朝刊、生物学者小林竹彦氏の「あすへの考」より引用

感想：社会にとって魅力的なシニアモデルを実現しているのがワイズの一つの役割かも？と感じさせられる記事でした。いつも思うことですが、ワイズの多くの人が亡くなる食前までワイズで人とつながり、クラブやその働き場をよりよくしようと、そして現役のまま亡くなっていくワイズの姿に、まさにシニアモデルそのものだと感じさせられています。

在京新年会

2024年1月13日、東京YMCA東陽町センターにて在京ワイズ合同新年会が行われ、約100名が参加しました。



2024年01月29日発行

能登半島地震への募金活動お願い

連日、ニュースで大きな被害の様子や避難者たちの様子が伝えられています。1月5日の東京YMCA 早天祈祷会においても、新年会の会場でも被災地のために共に祈りました。

YMCAとしての動きは次の通りです。

同盟の田口総主事はじめ、各地のYMCAスタッフが1月7日から9日まで被災地を訪問しました。1月7日に金沢YMCA 理事との懇談で能登半島全体の被害状況や動きなどを把握することができました。その後石川県庁を訪問し、1.5次避難所と言われる、被災地から仮の避難所の設置支援を行いました。1月8日には、七尾、輪島などの現状視察を行い、1月9日には、富山YMCAにて、今後の支援活動について協議しました。

内閣府は、熊本地震の時、YMCAが行った益城町での避難所運営が高く評価しており、その関係で石川県でも避難所運営にかかわる可能性が高くあります。そんな背景もあり、内閣府からの要請を受け、1月31日まで金沢市内に開設された石川県開設の1.5次避難所の運営アドバイザーとしてYMCAの支援活動を開始しました。全国YMCAのスタッフ3名が、現地に送り込まれ、避難所の運営管理をアドバイスしています。今後ボランティアが入れるようになれば、富山YMCAを拠点に、被災地へのアウトリーチ支援や避難所支援が予定しています。

追って、報告等させていただきますが、まず募金活動を進めていただければと思います。



募金要項

日本YMCA同盟への寄付

◆第1次募金期間：2024年3月31日まで

◆募金用途：

- ・被災地近隣YMCAと協働して行う、能登半島地震の被害を受けた地域への支援活動。
- ・YMCAが関係する災害支援団体との協働で行う支援活動

◆募金方法：各YMCAの窓口へ直接お持ちいただくか、以下にお振込みください。

- ①銀行振込：三菱UFJ銀行四谷支店 普通：0458758 公益財団法人日本YMCA同盟ポジティブネット募金口
- ②郵貯振替：日本YMCA同盟災害支援募金口 口座番号：00130-4-696497 「2024能登半島」とご記載ください。
- ③クレジットカード：[こちらのWebページ](#)から送金ください

ワイズメンズクラブ東日本区への寄付

下記口座に「能登半島」と記載の上送金をお願いします。

ゆうちょ銀行からの振り込み ゆうちょ銀行 口座記号番号：00110-0-362981

他の金融機関からの振り込み ゆうちょ銀行 019支店(当座)0362981

口座名義は「ワイズメンズクラブ国際協会東日本区」

※まとめて日本YMCA同盟へ寄付いたします。

2024年01月29日発行

今後の予定

- 2/15 後期区費支払い（クラブから区へ）
各種献金納期（クラブから部へ）
- 2/28 各種献金納期（部から区へ）
- 3/9-10 次期会長・部役員研修会（東山荘）
- 4/13-14 第三回役員会（四谷同盟会館）
- 5/25 第四回役員会（ズーム）
- 6/1 代議員会（十勝）
- 6/1 東日本区大会（十勝）

入会者一覧

11月・12月

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者・他
11月1日	関東東部	東京グリーン	村杉一榮	青木方枝
11月6日	東新部	東京町田コスモス	山口和彦	加藤祐一
11月9日	あずさ部	東京サンライズ	大森裕子	御園生好子
11月14日	北東部	宇都宮	佐藤 溪	大久保知宏
11月26日	富士山部	熱海	照木 裕	山崎英史
12月31日	富士山部	御殿場	勝間田和彦	若林洋平
12月31日	富士山部	御殿場	川上秀範	若林洋平

JEF 献金

11月・12月

献金日	献金者	クラブ		金額
11月27日	山田公平	宇都宮	息子（次男）の結婚感謝	40,000
11月27日	佐藤重良	甲府21	ワイズの発展を願って	20,000
11月27日	清水弘一	石巻広域	ワイズの発展を願って	10,000
11月27日	仙洞田安宏	甲府やまなみ	甲府やまなみクラブ1周年	10,000
11月27日	中込ひろみ	宇都宮	世界の平和を願って	10,000
11月30日	小林 隆	熱海グローリー	孫の誕生を祝って	10,000
12月4日	板村哲也	東京武蔵野多摩	東日本区発展のために	20,000
12月6日	田中博之	東京多摩スマイル	古希感謝	10,000